

「浴育」のススメ

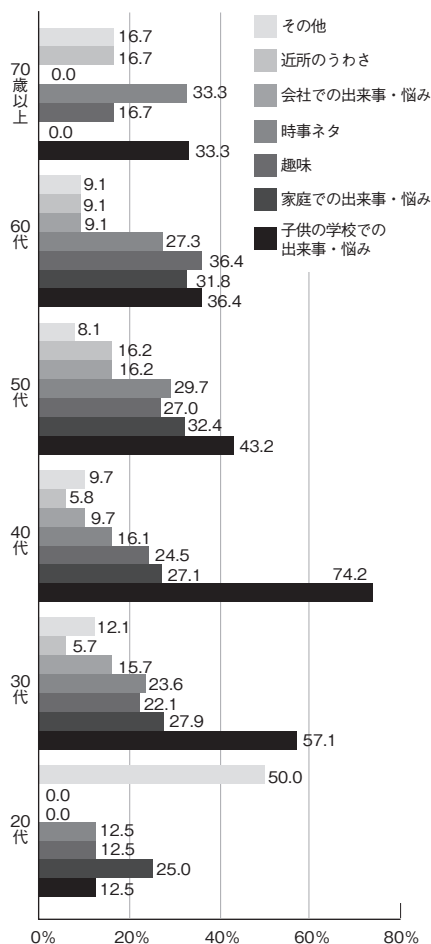
家族のコミュニケーションが希薄になってしまった現代、心まではだかになれるお風呂を、「浴育」の場としてみませんか。親が子供に伝える「大切なこと」いろいろ、子供を通じて親が学ぶ「忘れていたこと」いろいろ。「お風呂とコミュニケーション」の調査結果からは、どのような「浴育」のスタイルが見えてくるのでしょうか。

【ユパティオ リズ】ノーマット

1 家族とお風呂で どんな話をしますか。／年代

【複数回答】

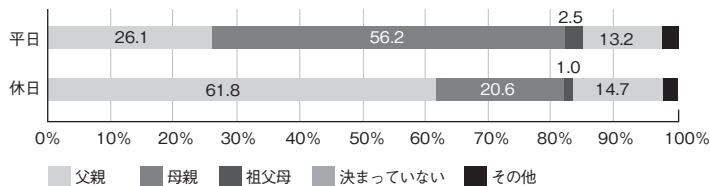
n=370 (単位：%)



小・中学生の子供がいる世代で、お風呂は「子供の学校での出来事や悩み」を聞いてあげる場所にもなっているようです。はだかになるから心も近づき、本音がいえるのでしょう。

2 あなたの家庭では、乳幼児の子供を、主にどなたがお風呂に入れていきますか (いましたか)。

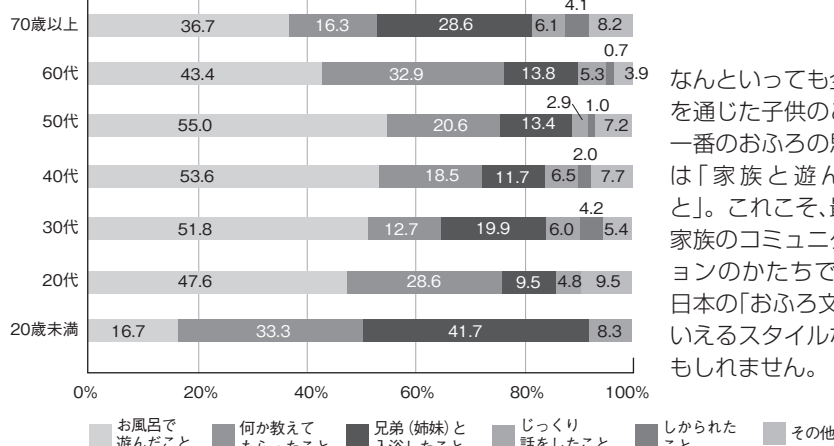
平日 n=1484 休日 n=1162 (単位：%)



今、「父親と子供」の家庭でのかわりや教育が話題になっています。父親が休日に子供をお風呂に入れる率は、2004年度に調査した際も高かったのですが、今回さらに3.2ポイントアップしました。

3 家族といっしょに入ったお風呂。 一番の思い出はどんなことですか。

n=857 (単位：%)

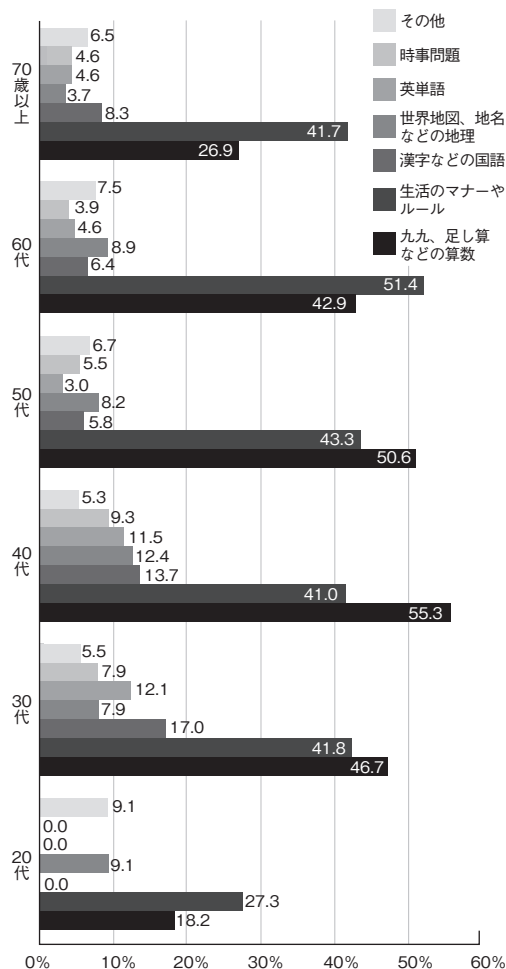


なんといっても全世代を通じた子供のころの一番のお風呂の思い出は「家族と遊んだこと」。これこそ、最高の家族のコミュニケーションのかたちであり、日本の「お風呂文化」といえるスタイルなのかもしれません。

4 あなたはお風呂の中で 子供や孫に何か教えた ことがありますか。

n=1214 (単位：%)

30代の親が「国語」をお風呂で教えている率が上の世代より高いのも、時代を反映しているのでしょうか。



(株)ノーマット「お風呂白書2007」調査結果から

●調査方法/Webアンケート ●調査対象者/ノーマットインターネットサイト

「NORITZSTYLE (ノーマットスタイル) つかりコムねん」会員 (全国の全世代男女) 1484人

●調査実施期間/2007年10月16日~18日